

産科のご紹介

科長 八重樫 伸生 教授

産科の特色

産科は妊娠・分娩を扱う科です。新生児医療との連携により「母子ともに安全で、喜びを分かちあえる出産」をすることが最終目的としているなど、「治療」を目的とした他科とは違う診療科といえます。

昨今、仙台市内でも分娩施設が減少しており、また仙台市産科セミオープンシステムの導入も伴い、当院での分娩数は増加しています。平成15年に取り扱った分娩数は498件でしたが、平成20年は822件となっています。

宮城県周産期医療システム

宮城県周産期医療システムは母児の安全な管理を目的としたシステムのことで、各医療施設が機能分担し全体で効果的に周産期医療を提供できるようにする体制のことを言います。

当院は現在、仙台赤十字病院、宮城県立こども病院とともに三次医療施設であり、重症例の受け入れや相談などを受けています。特に当院は充実した専門診療科や整備された診療設備を有することから、産科ショックや出血、合併症の悪化などを理由とした搬送を中心に受け入れており、平成20年には71件の搬送がありました。

合併症を有する妊婦の妊娠・分娩

昨今の晩婚化という社会的背景により初産年齢が上昇したり医療技術の向上により以前は妊娠許可されなかった合併症を有する女性が妊娠可能と診断されたりと本邦では合併症を有する妊婦の割合が増加しています。当院は大学病院という施設であることから合併症を有する様々な妊婦が受診しており、その数も年々増加しています。

合併症があったり双胎等のハイリスク妊娠であると自然な妊娠・出産を望めない傾向がありますが、当科では各種専門診療科やNICUとの連携により、少しでも自然な妊娠・出産に望むようスタッフ一同がサポートしています。



分娩室の一部では帝王切開や小手術を定期的に施行しています。

胎児疾患の早期発見と胎児治療

当科では最新の超音波診断機器を用いた出生前診断を行っており胎児疾患をより早くより厳密に診断できるよう努力しております。また、超音波ガイド下胎児診断、胎児治療を積極的に取り入れております。胎児採血、胎児輸血、羊水検査(染色体検査、サイトカイン測定による子宮内炎症の診断など)、絨毛採取などが主な手技です。



最新の超音波検査技術を用いて、より早期に出生前診断をおこなっています。

双胎間輸血症候群に対する胎児鏡下レーザー焼灼術

一絨毛膜性双胎において胎盤血管吻合により血流の不均衡が生じ児の間に供血と受血をきたす疾患を双胎間輸血症候群(TTTS: Twin to twin transfusion syndrome)と言います。1児は心不全、水腫、羊水過多を呈し、1児は循環不全、羊水過少を呈します。無事生児として出生したとしても脳性麻痺などの後遺症が残る可能性があります。当科では胎児鏡下レーザー焼灼術を取り入れ、基準を満たしたTTTSに対しレーザーによる胎盤血管吻合の遮断をすることで予後改善に取り組んでいます。



胎児鏡下レーザー焼灼術にて双胎間輸血症候群の予後改善を目指しています。

死産後褥婦に対する精神的サポート

医療技術の発達に伴い胎児に致死性の疾患が発見されることがあります。妊婦にとって妊娠中は胎児を育むという喜ばしい時期ですが、その時突然悲観の時を迎えることとなります。

当院ではその様な妊婦に対し妊娠・分娩を無事終了できるよう精神的サポートをおこなっております。妊産婦の精神的ダメージが分娩後に悪化するケースもあり、退院後はペリネタルロス外来という外来を受診していただき精神的サポートを行っています。その時、精神的ダメージが強度と判断された場合はカウンセリングを受診するようすすめています。

外来新患予約制

当科では外来待ち時間短縮を目的として産科セミオープンシステム利用を含めた全ての妊婦新患に対し予約制を取り入れることと致しました。妊婦紹介の際には地域医療連携センターを通してご予約いただけますと幸いです。また、合併症を有する妊婦紹介の際は関連専門診療科への予約も同時にいたしますので、電話連絡いただけますと診察待ち時間を短縮することができます。



助産師外来を積極的に活用し、妊婦の不安を共に解決しています。